

3 B 新規協力施設における効果検証効果

(1) B 利用者に対する変化・影響

①利用者との会話、声掛けや対応（個別記載／ヒアリング結果）

気づいたことカード	・ 特に変化なし。普段通りの対応を続けていきたい。 ・ コミュニケーションを図ったり、表情や動作を観察する時間が増えた。 ・ 積極的に声掛けや変化に気づこうという意識が生まれた。 ・ 他職員の気づきを参考に、対応を行ってみようと思うようになった。 ・ 気づいたことカードを書くことで、積極的に声がけをし、変化に気づこうという意識が生まれた。
多職種との一元化 生活支援記録の	・ 記録を一元化したことで各課の記録をタイムリーに確認できることで、各課がどのように利用者にアプローチしているかを細かく把握することができた。 ・ 他課の情報が記録上で速やかに得られることで、体調面に配慮をした声掛けができ、利用者の抱える不安にもタイムラグを持たずに返答がしやすくなった。 ・ どうしても他課との情報共有にはタイムラグが生じていたが、毎日関わりを持つ記録上で情報が得られることで介護課のみの視点ではない情報収集ができるようになった。
個別介護計画補足資料	・ 利用者が疲労感なく生活されているか確認する機会が増えた。体調管理を意識する関わりが多くなり、本人からも声を掛けていただくこともあった。高次脳機能障害を患っているため、以前は本人の伝えたいことを汲み取ることが難しいケースもあったが、本人の生活リズムや行動から、何を求めているのか理解を深めることにつながった。 ・ 利用者の体調面を考慮しながら、都度その方が安心できるような距離感で声掛けに努めることができた。 ・ 今回は資料の中に入れ忘れてしまったケースケアプラン記録の部分に、お部屋に戻る姿があったので声をかけたら休みたいという反応があったのでお部屋に案内しましたとか、よく声をかけてくれたんだなというような記録が残されていたので、体調の部分をよく気にかけてくれる職員がいたということが伝わった。 ・ フロアの連絡帳に「今回こういう取り組みをしています。私と担当する職員で観察していこうと思います」ということを記載したところ、別の職員も気にかけて記録に残していた。
私の希望 24時間シート／	・ 今まで以上に利用者に関わる時間が増え、利用者の意向を汲みやすい声のかけ方を意識するようになりました。また、利用者から声をかけてくれることが多くなり、その会話の中でご自分の気持ちを話されることも多くなり、表情から体調や些細な気持ちの変化も読み取ることができるようになった。 ・ 本人の意向や家族の希望を意識しながら声掛けや介助をするようになった。 ・ 当施設でも「24 時間シート」とフェイスシートを使っており、その情報と本人から聞き取ったり、ほかの職員から聞き取ったことを落とし込んだが、違う書式を使うことで生活面での変化や気づく部分も多くあり、利用者の生活を見直すことができた。

私の姿と気持ちシート／ ケアプランチェック表	- ケアを行っていく上で、様々な表情が見え、得意なこと、不得意なことが見えてきた。利用者の日々の変化にうれしい気持ちと楽しく行えた。 - 支援内容の一つに散歩があり、天気のいい日にテラスで散歩しながら本人の昔話や趣味の話を聞き、自分自身も人生の勉強になった。 - 作成は責任もあったが、ケアに対しては楽しんで行うことができた。
ケアプランチェック表	- 何気ない会話の中でも言葉遣いに気をつけるよう意識した。 - ケアプランに沿った行動をするべく、意識した声がけをするようになった。 - 内容を意識しながら実践することで、利用者の方も安心できたのではないと思う。 - 声がけを意識して行うことで前よりも利用者の方とケア中話すことが増えた。 - コールが頻回になり落ち着かなくなった場合も、こちらが落ち着き、相手の意見にきちんと耳を傾けたことで、落ち着いてもらえ穏やかな表情をされた。 - 大きな声は威圧的になってしまうことを意識し対応した。 - 男性利用者への対応については、特に変わりなし。 - 女性利用者への声がけについては、乱暴な言い方になったときは、今までよりも我慢強く、丁寧な言い方で接するようになった。 - 以前は丁寧な言い方で対応することをそこまでしていなかったと思い当たる場面があったが、意識しながら対応するようになった。 - 今までやっていたことでも意識することで、より丁寧にできた。 - 以前行っていたときより丁寧に行えるようになった。 - 以前から本人が不安定にならないよう声がけをするよう心掛けていたが、今回意識して行ったことにより、対応後の利用者の反応や様子についてもより観察することができた。 - 自分自身が優しく声がけし、傾聴することで利用者の反応も以前より穏やかになった。 - 抱えている病気に合わせて、ゆっくり話を聞き対応することで利用者の気持ちも落ち着いていた。 - 声がけに反応はあるが、あまり話ができない利用者なので、あまり返ってこなかった。 - おだやかに対応するようになった。イライラすることが少なくなった。 - 根気よく伝える。どうしたら伝わるのかを考える。 - 相手の言葉や態度をそのまま受け止めるのではなく、一呼吸おいてから、目や表情を見て対応するよう気をつけるようになった。 - 普段から行っていることなので、特に変わったことはなかったですが、ズボンの上げ下げの際、ズボンに手を添えるとすぐに腰を上げてくれるようになった。 - 乱暴な言い方になった際、優しく声がけすると笑顔が増えた。
24時間シート	- 利用者との会話の幅が広がった。(昔どのような生活をしていたか等) - 危険を伴うと思い制止する声掛けをしていたが、そういう声掛けをできるだけしないように努めた。 - 本人が納得できるような声がけを心掛けることができた。

②利用者に関する情報収集の視点・方法（個別記載／ヒアリング結果）

気づいたことカード	- 特に変化ないと感じる。 - 以前より利用者の状態を把握しようと思うようになった。 - 先程と同様に変化に気づこうと、利用者の様子を観察する時間が増えた。 - 前日等の他職員の気づきや申し送りに対する変化に気づき、またコミュニケーション観察が多くなった。 - 前日の様子などを積極的に聞き、また記録から利用者の状態などを把握しようと思うようになった。
多職種との一元化 生活支援記録の	特に支援課の記録を詳細に確認できたことで、利用者の家族関係やバックグラウンドを把握することができた。
個別介護計画補足資料	- 利用者らしい生活が継続できるように、事故予防を意識して情報収集した。 - 利用者の生活上、できること、できないこと、何があればできるようなる、どこにリスクがあるかを考え、安全に生活が継続できるように職員に周知した。 - 以前よりもさらに詳しく記録をすることで、利用者の1日の過ごし方や行動を意識的に観察できた。また、本人らしく安全に生活するにはどのような関わりを行えば良いのかを考え気づくことができた。 - 職員は利用者のリスクというのを感じとってはいるが、こういうふうにしておこうとまでは行き着いていなかった。同じように認識するために写真に撮っておけば、実際、成蹊園においては人事異動もあり、新しい職員にも見てもらえる、気づいてもらえる資料があるのはいいと思った。
私の希望シート／ 暮らし方シート／ 24時間シート	- 利用者の話に耳を傾けることにより、お互いの認識のずれや、利用者、家族と職員との認識にずれがないかに気をつけるようになった。 - 本人の思い等をより深く知ることを意識するようになった。そのため、会話の内容にも変化があった。 - 感染症対策中で家族からのお話を取り入れることができず、その部分を埋めるのが難しかったため、入所時の情報などから入れ込んだ。
私の姿と気持ちシート／ 支援手順書／ ケアプランチェック表	- 自分自身の価値観だけではなく、他のスタッフの意見を聞き、より多い意見を聞くことも大切だと感じた。 - アセスメントの指導をしてもわかりにくいスタッフが多い中、「私の姿と気持ちシート」はアセスメントしやすいことや、コミュニケーションをとっていききっかけづくりにもなるので、いいアイテムであると思う。 - 利用者本人に本当の気持ちなどを聞き出すことができ、本音はだいぶ違うことがわかり、利用者の気持ちを汲みとれるようになった。

ケアプランチェック表	• 利用者の情報を会話する中で誘導するよう意識した。 • 前日はどのような状況だったかなど他スタッフに聞くようになった。 • 今回取り組んだ内容だけではなく、ケースを参照しなおすことで、本人の背景を知りながら支援していくことが大切だと改めて思った。 • 利用者の方全体をよく観察するようになった。 • まずどのような方なのかをよく観察し、他の職員との関わり方をみて、接し方（声掛けの仕方、表情、話すスピード等）を変えるようにした。そうすることで、利用者も優しい言葉を掛けてくれ、笑顔を見せてくれるようになった。 • 特に変わらなかった。 • 他職員の方々に対応法の確認をした。 • より細かな行動等を観察するようになり、その上で対応するようになった。 • 他職員の対応の仕方などよく観察するようになった。 • 他職員がどのような声掛けをしているか観察したり、本人に聞いたりするようになった。 • 他職員がどのような声掛けや対応をしているか等を聞き、良いことは実践するようになった。 • 利用者の方の日課の再確認、また対応方法を統一することにつながったと思う。また、全体で行ったことで、チームとしても対応の統一化につながったのではないかなと思う。 • 他職員はどのように対応しているのか見学し、質問する等し、より多くの意見を取り入れるようにしている。 • 対応するにあたり、本人へ指示的な言い方「～してくださいね」「～できますか？」というように、一つひとつ確認しながら行うことが大切だと思った。 • みんなと情報共有のためにコミュニケーションをとれるようになった。 • 私への欲求が多くなったように感じる。 • 声掛けに対するうなずきと行動で伝わっているかを確認することができた。 • 前日からの引継ぎや他職員との情報共有を大切にするようになった。
24時間シート	• 直接話を聞くだけでなく、入所当時の記録を読み情報収集を行った。 • 引き出せていない情報があるのではないかなという視点で関わるようになった。 • 再度ユニット職員にケアの方法を聞いてみた。 • 各スタッフの介助や援助のやり方が様々であることを改めて痛感した。 • もう少し統一したケアのやり方ができるのではないかと感じた。

③利用者への介護実践（個別記載／ヒアリング結果）

気づいたことカード	- 特に変化ないと感じる。 - 特に変わらない。 1フロアに35人の利用者がいるため、現状はあまり一人ひとりの対応が深くできないが、対象者の二人に対して、気づいたことカード使うことで、ほかの人より深く対応ができ、何かしら変わったと感じている。これをきっかけに色々なことができるのではないかなと思う。
多職種との一元化 生活支援記録の	今までも記録は事実に基づき記入していたものなので、特に変化や影響はなかった。
計画補足資料 個別介護	- ケアプランの目標が達成できるように、行動計画に取り組む上での注意事項や、本人の生活状況を再度確認し、職員全体が共通認識できるように働きかけた。 - 以前と比べ、他職員に周知し様々な視点から記録を記入していただくことで日々の記録が増えケアの充実につながったように思う。
私の希望シート／ 暮らし方シート／ 24時間シート	- 利用者の意向を汲み取り、それがかなうように取り組むことの重要性を再認識した。 - 思いを知ったことで、それを頭に入れて声掛けや介助をするようになった。
私の姿勢と気持ちシート／ ケアプラン手順書／ ケアプランチェック表	- 実践を行い、計画書を作成していることもあり責任感がもてた。 - 他のスタッフへの声かけや自分でも進んで取り組みなどが行えた。
ケアプランチェック表	- 全て実践するのは難しかった。 - ケース記録に目を通すことが増えた。 - 常に心掛けて実践することが大切だと感じた。 - 利用者の方の今の状態を考え、どうケアを行ったら最も快適に過ごせるのか、改めて考えるようになった。 - 介助に対し協力的になってもらえたことで、お互いにプラスになることが増えた。 - 特に変わらなかった。 - 一日を振り返り、次の日はできるように頑張ろうと思った。 - 過去の記録をチェックする等、見返すことが多くなった。 - 細かい変化に気づいた。

ケアプラン チェック表	- 実践してみて、今まで実践していたことをもう一度再確認でき、きちんとできるようになったと思う。 - 支援の中において必要とする面の再確認になったため、本人がどういう状態か、より細かく記録することができる。(同様の声かけで本人がどう行動してくれたか等) - 利用者が自分自身でできることはできるだけやってもらい、介助が必要なときは優しく声かけで行うよう意識するようになった。 - チェック表に記入することで、次は気をつけようとか、うまくできた等再確認できる。 - 利用者の色々な情報を得れて、利用者本人に合った介護をできるようになった。 - 気持ちが穏やかに過ごせるようになった。 - 行動観察の大切さを思い出しました。 - 冷静に気持ちを落ち着いて、相手に引き込まれないように対応することで、相手の心の乱れが小さくなる気がする。 - 改めて利用者の機能低下がみられたり、気持ちが不安定なときが多いことなどを見つけれれた。
24時間 シート	- 入浴時間の見直し。 - 職員みんなが「24時間シート」を共有することで、やり方を統一したことで、利用者が落ち着くことにつながった。

④新たな気づき（個別記載／ヒアリング結果）

気づいたことカード	・ 特に変化ないと感じる。 ・ 特に変わらず。 ・ お風呂担当職員がお風呂の温度が高めのほうが好きであることや、レクへの参加が消極的だったが習字には積極的に参加していることなど、新しい気づきがあった。 ・ 様式は違うが、フロア内で情報を共有できるシステムをつくり、それには同じように気づいたことを書くようにはしていた。ただ一人をずっと見ているわけにはいけないため、各々気づいたことを書いて、それを全員見るようにしている。職員は気づきに対して意識的に気づこうとする努力はしていると思う。 ・ フロアが変わらないので、気づきを見つけるのにかなり時間がかかった職員や、3 日同じ出勤だと書くことがないという職員もいた。1 日 1 枚は大変だったと思う。何でもいいと言ったものの、何でもいいことがまた負担だったのではないかな。どうしてもみんな介護目線になり、ケース記録のようになってしまった職員もいた。
生活支援記録の多職種との一元化	・ 各課の記録を色分けすることで、記録の区別が付き、わかりやすかった。 ・ 記録を色分けしたことで、一元化していく中でもすぐに記録の見分けがついた。 ・ 期間中に亡くなられたため、続いて新規入所の方を対象にして新たに始めた。この方は状態が落ち着いていたため、ほかの課の記録が特に介入してくることはなかった。これもやってみてわかったということである。
個別介護計画補足資料	・ これまでも「個別介護計画補足資料」と似た情報発信はあったが、書式としての管理ができていなかった。必要な情報を資料として管理することで、統一したケアの充実につながると感じる。 ・ 今回の取り組みを通して、改めて自分自身のケアの方法を見つめ直すきっかけになった。
私の希望シート／暮らし方シート／24 時間シート	・ 書式は違うが行っていることは同じだと思うが、違う書式を利用することで新たに気づく部分もあり利用者の生活を見直すことができた。 ・ 「24 時間シート」等は普段使用しているものなので、改めて 1 日の生活リズム等を意識できた。
私の姿勢と気持ちシート／ケアプラン手順書／支援手帳／チェック表	・ 取り組んだ書式や仕組みは自分でも計画をするにあたって、わかりやすくほかの職員に説明するのにも、使いやすかった。 ・ 利用者は内向的だと思い込んでいたが、「支援手順書」によって積極的に職員が関わることで、利用者自身も活動に対して積極的になった。

ケアプランチェック表	• 対応について再確認できた。 • 利用者に関わることができていないことがあり、少しでも時間があれば、声掛けやケアプランに沿ったサービス提供を行っていかうと思うようになった。 • チェック表に記入しなくても、一つひとつの支援の前後で適切だったかを心掛けていかうと思った。 • 毎日の取り組みの反省ができるところ。 • きちんとした声掛けを徹底することで利用者のできることが増え、喜びを感じていただくことで、穏やかな生活へつながっていくのではないかと思った。 • 利用者を今まで以上によく観察しようと思うようになった。 • いつも行っていることを改めて確認できた。 • 1日を通して全てケアプラン通り行えないと感じた。 • 書き出すことでその日どのくらい関わっていたかわかった。 • 忘れがちな対応もあったので、再確認できた。 • 自分の行う支援の統一化を図り、利用者への対応と本人の様子をチェック表に記録することで、本人の些細な変化がわかりやすい。また変化があった際の自分の対応が適したものだったのかを再確認できる。 • 毎回気をつけていくことを改めて確認しながらケアを行うようになった。 • 利用者それぞれ対応方法が違う。 • 自分の振り返りや利用者の様子が、振り返ることで状態が以前よりわかりやすくなった。 • 個々の合わせたアプローチの仕方に留意する。 • いつも何気なく対応していることも意識して取り組むようになった。考えながら対応するようになった。 • 必ずしもその日1日を通してケアプランを全て行えているわけではないと感じた。
24時間シート	• 本人様の好みを勘違いしていた。パンにジャムを必ず塗るのかと思っていた。 • スタッフが介助を行いすぎていると感じた。 • できることを奪ってしまっていることがわかり、気づけた。 • 意外とこだわりがあること等、文章として表すとわかりやすかった。 • 本人ができることの援助ができてなかった。 • 他のスタッフからも「24時間シート」に付け加えてもらうことで、互いに利用者の援助に気づくことができた。

⑤他の利用者への応用・拡大の必要性（個別記載／ヒアリング結果）

気づいたこと カード	・ 応用・拡大はあっても良いと感じた。 ・ 新規利用者や特変者、ケアプラン変更者等今後ケアする上で変化、気づきを出勤職員が残すことは必要。 ・ 今回は二人だからできたが、職員 13 人が毎日いるわけではないため、全利用者 35 人にできるかといったら、できるとは言い切れない。
多職種との一元化 生活支援記録の	・ ケアプラン（介護過程）を展開していく上では、各課もそれぞれのケアプランを把握する必要がある。 ・ 利用者それぞれの記録内容に厚みを出すという意味では、ケアプラン（介護過程）の実施とは違うが、他利用者でも行ってもいいと思う。
個別介護 計画補足資料	・ 今回 1 名の方を対象に実践したが、この期間中にフロアの役職者には、同様の書式が必要な利用者にはアプローチしてもらいたいと伝えた。今回の取り組みのような書式は必要であろうとの反応が聞かれている。 ・ 書式を通して、言葉だけでは伝わらない細かなケアを写真があることでより充実したケアが行えると思い必要性を感じた。 ・ 現場の 3 名のリーダーと話していく中で、この方をつくったらどうかというのが私からもありますし、現場のリーダーのほうからこの方をつくってみようかなということも聞かれている。一個の事例ができると、この人でやってみたいというような考えにつながってきていると思う。
私の希望シート／ 24 時間シート	・ これを全て同じように行っていくことは時間的にも業務的にも難しいと感じたが、利用者の変化や更新すべきことに気がつき、取り入れたい部分もある。 ・ 実際に一人ひとりに同じようにシートを記入していくことは難しいと思うが、利用者を改めて知る機会となった。
私の姿勢と気持ちシート／ ケアプラン手順書／ 支援手帳／ チェック表	・ 他の利用者への応用・拡大の必要性を感じた。利用者の様々な様子もわかり、本人のやりたいこと、苦手なこと、何を考えているかなど引き出せるきっかけにもなると思う。生活の質のアップにもつながると思う。
ケアプラン チェック表	・ 他利用者へも応用できる。 ・ 必要性を感じました。 ・ 自分がどれだけその利用者に関わることができているかがわかるので、今後他の利用者への取り組みも必要だと思う。 ・ 個々に短期間でもいいので、このような実践を行っていけば、よりケースのケアプランを認識し、より良い支援の統一へとつながっていくのではないかと思った。 ・ 利用者の方が快適に生活できるように支援していけるようになっていく。

ケアプラン チェック表	• 何でも介助するのではなく、できることはやってもらうことで、本人のやる気を損ねることなく、残存機能を活かせ、さらに活動量の増加を望めると思う。 • 気をつけてケアに入るようになったと思うので、他利用者の方にもあればいいと思う。 • 他の利用者にも応用・拡大することで、自分でできることはやってもらい、生活の向上やリハビリにもつながると感じました。声がけの仕方一つで、利用者は落ち着きを取り戻せるので、応用していきたいと思う。 • 精神的に不安定な方や訴えない利用者（状態によく変化がある方）、また日常的な変化がよくあるにも関わらず、通常のこととして見られがちな方に有効なのではと思った。 • 担当利用者以外の利用者のケアや今回ケアプランチェックをした以外の利用者のケアについても改めて見つめ直す必要があると感じた。 • 利用者それぞれで違うので、本人に合った介護を行う必要がある。 • 多少あっても良いと感じた。 • 日々の支援の中でも、既に実施されていることもある。 • ケース担当として自分の受け持ち利用者だけでなく、あたりまえに施設の利用者への配慮、ケアプラン以外の応用も必要だと感じた。
24時間 シート	• 必要であると感じる。なぜなら、利用者の好みや生活を勘違いしている可能性があるため。家族の意向等も再確認できる。 • 必要性を感じる。

(2) B チームケアにおける変化・影響

① チームにおける目標や課題の共有（個別記載／ヒアリング結果）

気づいたこと カード	• 取り組みを行うことで、目的・目標を考える、良いきっかけになったと感じる。 • 対象利用者の状態の変化や様子を話す機会が増えた。 • 1週間気づいたことカードをそれぞれ書いてみたが、まだみんなが全部読んでいない状態なので、共有までいっていない。
多職種との一元化 生活支援記録の	• より一層、情報共有を行っていく難しさがあった。 • 日々のケアにおける課題においては共有がより一層図りやすくなっていたと思うが、ケアプランに関しては、特別な変化・影響は感じられなかった。
個別介護計画 補足資料	• 「個別介護計画補足資料」の内容から、利用者の病歴やADLを再認識し、ケアプラン目標が達成できるように、細かな関わりの必要性を共有できた。 • 目標や課題を共有してはいたものの、記録として残っていないことが見受けられた。
私の希望シート／ 暮らし方シート／ 24時間シート	• 暮らしを見直すというユニットの目標があり、チームとしてそれを再認識することにつながった。
私の姿勢と気持ちシート／ ケアプラン支援手帳／ ケアプランチェック表	• 積極的にスタッフが協力し、責任を持って実施できていた。 • 以前からスタッフの連携は取れていたが、今回色々な情報や利用者の変化も教えてもらうなど、一段と連絡はとれていた。

ケアプランチェック表	• みんなで協力体制ができると思う。 • 課題を共有することで同じ方向、同じ目的に向かっていていいと思う。 • 以前よりも支援が統一し、実践されたと思う。 • 目標を決めて介助することで、同じ目標に向かって支援することができ、ミーティングなどでも反省点や気づきがでてくる場所。 • 他の職員がどのように接しているか観察することで良い方法を知ることができ、また、情報共有することで統一したケアができる。 • 特に変わらない。 • 前より職員同士での声かけが増えた。 • 情報共有することで、より良いケアができると感じた。 • みんな意識してできていた気がする。 • 職員一人ひとりがきちんと行えるようになった。 • チーム全体で利用者へのケアの考慮すべきポイントを確認でき、全体で統一した支援を行える。 • 全員が状況をしっかり観察、把握し、全体に共有することでより安全に過ごしてもらえるようになった。 • チェック表を行うことで都度意識して取り組める。 • その日の目標を達成できるようにみんな頑張っていた。 • 他の人の対応方法で、上手くできている所は真似して、共有するようになった。 • 一人ひとりが声に出して、ケアを行っているかの確認をしていること。
24時間シート	• ユニットリーダーとして、他のスタッフからの話をよく聞けるようになった。 • 自分から情報を発信していなかったことに気づいた。

②チームメンバーの関係性・関わり（個別記載／ヒアリング結果）

気づいたことカード	- 対象者について自然と話題にあがることがあり、チームとして一つの物事に取り組んでいる意識があったと感じる。 - 取り組み前に比べて対象の利用者の話をする機会が増えた。 - 利用者の表情、行動の変化に気づき、他職員へ申し送る流れができた。 - 対象利用者のことに対し、情報を共有する時間が増えた。 - 日頃から言い合える関係性ができており、変化があったならばそれを取り入れようという環境にはなっていると思う。
生活支援記録の多職種との一元化	- 記録を一元化したことで、経験の浅い職員などは、実際に他部署の記録をすぐに閲覧でき、他部署特有の利用者へアプローチが確認できた。 - ケアプランの内容が、その生活の中で行えるようなものが主となっており、介護課のほうメインで行っている。特に医療的なものとかそういう処置とかそういうところも現在は介護課で記録している。もし、他課が関わって、ケアプランの展開となっていくということであれば、他課でも把握をしていけば、より一層、初期の内容などもっと詳しいものがその記録の中に入っていくと思う。 - 医務課の薬の変更を記録に残したので、そういう面では記録を遡るときにタイムラグが生じず、その場その場で私たちも確認ができているという意味ではすごく有用性のあるものだと思う。
個別介護計画補足資料	「個別介護計画補足資料」を作成したことで、情報共有され統一したケアにつながった。ケアプラン・ケース記録も、担当職員以外も関わるようになり、内容が濃くなった。 - 目標は同じでも、職員個々のアプローチを増やしていくことで違った気づきが増える。 - 今回は期間も短かったので、広い面ではほかの職員にこういうことをやっているということを伝えにくかった。ユニット内とかで情報をもうちよつと詳しく共有できたら、この記入の仕方も変わったとは思っている。
私の希望シート／24時間シート	- 利用者の情報共有の必要性を感じた。情報共有をすることで必要なケアを見つけやすくなり、共通の目標に向かうことができると思う。 - 職員間のコミュニケーションが増えたように思う。
私の姿勢と気持ちシート／ケアプランチェック表	- 今回の実践を行うことで、チームで話し合い、色々な意見をもらい、利用者の変化にも気づけた。 - これらのシートがあると、何をどうするのか、本人の思いなどが、他の職員にもわかりやすく伝わると思う。 - 実践する前に「私の姿勢と気持ちシート」と「支援手順書」を一人ひとりに口頭で、シートをみせ説明し、ほぼ全職員に声をかけた。途中経過では、他の職員にも声をかけ様子を聞くと、今日は落ち込みがひどいから実践できなかったということも聞き取れた。

ケアプラン チェック表	• 情報共有ができた。 • スタッフ間の声かけや情報共有ができていた。以前より密な会話ができてきたと思う。 • 特に変化は感じなかった。 • 細かく情報共有することで、職員一人ひとり利用者の変化に気づける。 • 「こういうときはこうした方が良い」等、みんなが同じ方向に向かって取り組めたと思う。 • 特に変わらない。 • 声を掛け合うようになった。 • 声かけや細かなことでも情報を共有するようになった。 • 利用者への対応の仕方の勉強になった。 • チームワーク・連携の再確認ができた。 • チーム全体でケアを確認、共有することで、利用者に対しても共有した目標を持つことができ、連携した支援につながる。 • 情報共有することでスムーズなケアが行えるようになった。 • 統一した対応方法で関わることで、課題が見えてきたり、情報共有がスムーズに行える。 • 一つになって良かった。 • セッションできるようになったと思う。 • 情報共有が必要であると実感した。
24時間 シート	• 「24 時間シート」を作成するにあたって、利用者のちょっとした好みやできことを話すことが増えた。

③チームでの介護実践の充実・変化（個別記載／ヒアリング結果）

気づいたこと カード	- 記録に残すということを改めて意識する機会だったと思う。 - 他職員が気づいた情報をケアに活かしていこうという意欲が増した。 - まだ、1週間実施しただけで、もう少し時間を取ってみんなで会議をする必要があると思う。
生活支援記録の 多職種との一元化	- 介護課内での介護過程の実施という点では、特に変化はないが、他課が介護過程の記録を残すとなると、他課も介護過程の内容を把握しなければならないと感じた。 - ケアプランの内容自体が、介護課が主となるものが多いため、他課におけるケアプランへの関わりにおいては、あまり変化・影響は感じられなかった。
個別介護計画 補足資料	- 転倒等の事故リスクがある利用者でありましたが、この期間ヒヤリハットや事故報告があがっていない。リスク回避の意識が職員に広がった。 - 今回担当した利用者の行動パターンを意識して観察するようになり、事故の予防やリスク軽減につながった。また、今回の取り組みを通し他の利用者へも通ずるところがあった。
私の希望シート／ 暮らし方シート／ 24時間シート	- 利用者との関わりが多くなるだけでなく、情報収集と情報共有をすることで、職員同士のコミュニケーションが多くなった。担当の思いがチームで共有でき、チームワークの向上につながったと感じた。 - 利用者の情報や思いをチームで共有することで、共通したケアを行うことができた。 - どのような思いを持っているのかを共有してケアを行うことにつながったと思う。
私の姿勢と気持ち ケアプラン手順書／ 支援手帳／ チェック表	色々なスタッフが関わることで、一つの課題でも何をどのようにしたらいいか？スタッフ自身考えることもあり、スタッフ自身の向上にもなっていた。
ケアプラン チェック表	- チームで声を掛け合って、業務にあたるようになった。 - 他のスタッフの声がけや行動にも耳を傾け、目が向くようになった。 - みなさんケアプランに沿って支援されていたように思う。 - 声を掛け合いながら今行っているケアの状況を伝え合うことでスムーズに業務ができる。 - 意識して利用者に接したことで方向性が一致し、利用者も安定した介助を受けられるようになった。 - 特に変わらない。

ケアプラン チェック表	• 対応の仕方等について情報共有ができた。 • 細かな気づきが記録等を通して大切になってくると感じた。 • 上手な声かけの仕方など共有できたと思う。 • 今まで以上に利用者に目を向けるようになったと思う。 • 利用者のケアを行うことで、より本人にも活かせるため、良いと思う。また、一人ではなく、全体として行うので、チームケアとして充実すると思う。 • 他利用者への実践も今まで以上に意識して行えるようになった。 • 一つになってやることで、チームの連携が良くなった。 • 情報共有を積極的に行えていると思う。 • 小さな気づきが利用者の健康状態や日々の生活の質を変えていくので記録などが増えた。
24時間 シート	• 他スタッフの介助方法を知ることでもでき、介護実践の幅が広がった。 • 利用者に対してスタッフが先にやってしまうことが多くあったと気づいた。

④他の利用者への応用・拡大の必要性の共有（個別記載／ヒアリング結果）

気づいたこと カード	- チーム内ではある程度できているが、改めて意識する機会になったと感じる。 - つながりました。 - 今は、自分たちでつくったファイルをみんなが見る癖をつけている段階で、ファイルがどの程度影響するのかを見極めてから導入してもいいかと思う。
生活支援記録 の多職種との 一元化	情報の一元化という点では、他利用者への応用も必要だと感じた。
個別介護計画 補足資料	- 今後、他利用者においても書式の導入を検討しても良いのではないかと考えられる。必要な利用者から随時導入していこうと考えている。 - 一目で情報が得られるため、他利用者の方にも同じような書式が必要だと考えられる。
私の希望シート／ 暮らし方シート／ 24時間シート	- 利用者一人ひとりを全員が同じように理解するために必要なことをチームで共有できた。 - 利用者の方を知り理解することの大切さを共有できたので、他利用者の方への必要性も共有できたと思う。
私の姿と気持ちシート／ ケアプラン手順書／ ケアプランチェック表	- チームでやることの大切さを感じた。 - 他の利用者にも実施したほうがいいと思う。しっかり書面にし業務に入れることで多くの関わりが持てると思う。利用者のやれることやれないこと等を引き出すことができ、利用者の生活もアップすると思う。
ケアプラン チェック表	- つながっていくと思う。 「ケアプランチェック表」の内容を心掛けることで、チェックしないよりも統一した支援ができると思った。 - なんでも声を掛け合い、利用者の方の情報共有することで業務がスムーズに行える。 - 良い点、悪い点が見えてくることで、利用者一人ひとりにとって最も合った介助が受けられるようになって感じた。 - 利用者のケアを行う中で、業務が優先されると利用者の精神的な支援や自立支援に関わる声がけや対応が不十分になることがあると思うため、簡単なチェック方式で意識づけにつながることは良いと思う。
24時間 シート	- 少しつながった。 - 寝たきりや自分の気持ちが言えない利用者にたいしての「24時間シート」は、介護支援などどのようにしたらいいか難しい気がする。

(3) B その他（個別記載／ヒアリング結果）

①良かったところ・難しかったところ（個別記載／ヒアリング結果）

気づいたこと カード	- 難しいことではなく、書式も簡単で取り組みも負担になるものではなかった。 - 今回は限定した二人に関して、いつもより深く実施できたというのは良かったと思う。お風呂のこととなど新しい気づきがあった職員はいたが、ほとんどの職員は何を書いたらいいか毎日似たりよったりのことを書いたり、毎日同じことを書いていたり、そういうところは難しかったのではないと思う。
生活支援記録の多職種との一元化	- 他部署の記録を詳細に確認できたところは、ケアに幅が出るという観点では良い。 - 一方、介護課にはあまり必要としない情報も記入されることがあるので、実際に記録の一元化を図り、介護過程へ取り組むという観点では、各課にも介護過程に関する記録を書いて頂くよう、協力を仰ぐ必要があると感じる。 - 他部署間で記録を共有した際に、記録時間が重なると打ち込めないことも出てくると思う。 （当該施設はワードベースなので）他にワードを開き、後でコピペするなどのひと手間を伴う作業も生じると感じる。 - 当該施設では一元化はやっておらず、介護課がメインの記録になっている。取捨選択の点では他の課の職員にも理解をしてもらい、一元化していく記録を残す理解がまず生じてくると思う。定着するまでには難しいと思う。
個別介護計画 補足資料	「個別介護計画補足資料」は、写真を取り込んだ物であれば、一目で理解できる資料となる。課題となることは、PCが苦手な職員もいるので作成手順等の周知も必要。 - 写真等を貼付することにより、より利用者一人ひとりのケアの方法がわかりやすくなる。 - 書式を作るまでにPCの使い方が難しい場面がある。
私の希望シート／ 暮らし方シート／ 24時間シート	「私の希望シート」は、利用者、家族、職員の情報がわかりやすく良かったと思う。 - 利用者の情報を改めて再確認することができた。「暮らし方シート」の家族からの希望の欄は、情報として持っていないことが多くわからない部分があった。
私の姿と気持ちシート／ 支援手順書／ ケアプランチェック表	- わかりやすくまとめやすかった。たいへん良かった。ターミナルケアはうまく聞くことができなかった。 - 利用者にこんなことができるかなと考えるのが楽しかった。 「支援手順書」は、時間とやること、サービス手順がしっかりわかれて書いてあり、わかりやすかった。 - 実施を行った上での評価は、私自身もほかの職員も利用者に関わるが増えたことが良かったと思う。

ケアプラン チェック表	• ケアプラン一つ一つを意識してケアを行うことができた。 • チェックするだけの様式だったので、取り組みやすかった。 • その日のうちにチェック表への記入ができない。 • ○、△、×のチェックの着眼点がわかりやすい方が良かった。 • 書式としては、記入しやすいと感じた。
24時間 シート	• 「自分でできるけどしていないこと」という項目は、どれだけ利用者の自立力を奪っているのかを再確認することができたため、良かったと感じる。 • 内容をどこまで記入したら良いのかが難しかった。

②効率性や生産性の向上について（個別記載／ヒアリング結果）

気づいたこととカード	日々の変化に気づけることで状況に応じた対応がスムーズにできると感じる。
多職種との一元化 生活支援記録の	- 各部署によって色分けしたことで、一目でどの部署の記録かが追えた。 - 何か情報を拾いたいときに、記録の一元化を図れば、そのデータだけを確認して済ませられるので、効率化につながった。 - 他課からの情報を介護課が一貫して記録することが必要なくなれば、効率性はとても良くなると感じる。情報共有のタイムラグがなくなることで、ケアの方向性も考えやすくなると思われる。
個別介護計画補足資料	- 視覚障害のある利用者であるため、本人にとっても生活しやすい環境が整った。事故リスクの回避は利用者の負担軽減だけでなく、職員も事故リスクへのプレッシャーや、事故が起きてしまった場合の対応が減少し、効率性・生産性も向上されると思う。 - 言葉で伝えるよりも効率化されていると感じた。 - 職員一人ひとりが疑問に思うことが減り、誰が見ても同じケアを行える。 - 即座に実践することができるため、生産性があると思った。 - 本人らしい生活を送っていただきたいという部分を考えると、生活しやすい環境を整えてあげたい。事故リスクがなくなるということは、本人の生活水準も上がるということと、あと、職員に関しても、関わっていく中で事故に対するプレッシャーであったり、事故が起きてしまったときの対応という部分を考えると、効率性も生産性も上がっていく。本人にとっても、私たちにとってもあがっていく内容を入れ込んだ形に今回はなったと感じている。
私の希望シート／ 24時間シート	- 職員異動などでは効率よく情報を取り入れられると思う。 - 変化する部分もあるので、定期的に更新していき、活用できると良いと思う。 - 情報の更新等は時間的にやっていくことができないのが現状で、それが「24 時間シート」やアセスメント、情報更新の課題だが、記録をする時間の十分な確保があればできるのではないと思う。 - 当施設は「24 時間シート」に結構力を入れてやっている部分があった。最初に、みんなに重要性をたたき込んで、みんなの共感を得られればつくれるが、それを継続していくというのがとても難しい。
私の姿勢と気持ちシート／ ケアプラン手順書／ チェック表	- 言葉で伝えるようだ今回のケアに関してうまく語れなかったと思う。 - 書式を使用することでだれでも理解しやすかった。

ケアプラン チェック表	• 普段ケアで落としがちになっていることを表にして意識すれば効率があがると思った。 • モニタリングの際の情報収集がよりわかりやすく、やりやすくなると感じた。 • 経験年数が浅い職員であっても、チェック表を活用することでのチームケアが強化され、効率性、生産性が向上すると思う。
24時間 シート	• 特に変化なし。 • 「24 時間シート」をどこに置けばみんなの目につくのか、またユニットに手伝いで来たスタッフに、これを見たらすぐわかるよと言えるくらいのシートにできればいいと思う。

③個別介護計画／施設サービス計画への影響（個別記載／ヒアリング結果）

気づいたこと カード	- プランの実行は最低限の役割、プラン以外でできる。 - 自分らのできる範囲でケアプランに沿ってケアをしている。今回例えば習字の気づきがわかったことから、日中の活動量やレクへの工夫については今後深めていきたいと思う。
多職種との一元化 生活支援記録の	- 特になし。 - 現在のケアプランは介護課が主となる内容が多く、他課からの関わりはほとんどないが、記録の一元化が現実化となれば、もっと広い視点でのケアプラン立案が可能となってくると思う。 - アセスメントを行うときに、他課の記録が一元化で見られるということは、今まで以上に介護過程やケアプランの立案に関しても、もっと広い視点で立案ができるのではないと思う。他課の記録を見てまでの立案は難しいところでもある。記録を通して問題や検討課題をみつけ、ケアプランの幅を広げるという意味では必要だと思う。
計画個別介護 補足資料	当該施設においては、個別介護計画と施設サービス計画（ケアプラン）が同一の物になってしまっている。
暮らしたい希望 24時間シート／	- 担当だけではなく、共有することによりケアが統一されて、目標に近づくことができると思う。 - 担当だけでなく全体で共有することも大事だと思った。
ケアプランと気持ち 支援手続書／ チェック表	- その人なりのその人らしく生活を送れるように支援すること。 - その人の状況の把握にもつながる。生活の質UP。
ケアプラン チェック表	個別支援になっている
24時間シート	ケアプランは、例えば穏やかに生活できるや転倒がないようにというプランだが、スタッフが転倒しないように見守ることや声がけや周りの環境を整えていくために、「24時間シート」に記載することで支援ができていくと思う。

④介護福祉士の役割について（個別記載／ヒアリング結果）

気づいたこと カード	- 専門職として情報の発信、経験の還元。 13 人全員が介護福祉士ではないため、介護福祉士は知識や経験を伝えたり、逆に介護福祉士が資格がない職員の目線を勉強させてもらうという相互の関係、そういうのを現場でも活用をし、介護福祉士の考えだけにこだわらないようにはしていきたいと思う。例をあげると、最近入ったこれまで全然介護に携わったことのない若い職員がお風呂の温度に気づいた。介護福祉士の資格や経験年数が長い職員のほうが、正直何を書いているのかわからない状態だった。まっさらな子が、例えばお風呂の温度は高いほうがいい、何かギョーザは嫌いだったなど、正直言って経験年数が長い職員が思いつかないことや見つけられないことに気づいたことは勉強になっていると思う。
私の希望シート／暮らし方シート／24時間シート	- 介護過程を実践していく上での、旗振り役を担っていると考える。そのためには、各利用者の介護過程を把握し、明確化していく必要がある。 - チームケアにおいては、入居者に一番近い距離で日々の生活や体調、様子の変化に気づくことができる位置におり、ただ生活援助をするのみが役割ではないと考える。入居者の変化に伴い、柔軟なケア方法の検討、それを踏まえた介護過程の計画立案、実施、評価を広い視野で行っていくことで、入居者の生活の質を向上させていくことができる。 - 介護福祉士は利用者の一番近くで生活に関わり、利用者の生活への希望、日々の状態の変化に気づき、多職種との連携を図り、ケアの充実につなげる役割を担っている。 - 介護福祉士としての専門的な知識や気づきは介護過程実践において重要である。 - 介護福祉士としての専門的な知識や視点を持っていることが必要だと思う。 - 専門知識を持った上での根拠を持ったケアができるといったのが一番大きなところだと思う。そこに尽きると思う。 - 入職してリーダーになって、主任になってという流れで、自分の部下がついてくる辺り、また、実習生と関わる場面が多くなってきた中で、自分の発言には責任を持たなければいけないというところ。その裏には根拠になるものをしっかり持って伝えられないといけないのが、介護福祉士の役割だと思う。
私の姿と気持ちシート／ケアプラン支援手帳／チェック表	- 知識や技術など介護職員、後輩への助言や指導、介護実践において、根拠に基づいて計画書を作成、多職種連携を取り、チームへ言葉を発信する。 - 同じ介護福祉士でもキャリアだけ、年数だけで、学びを深めていない、利用者を見ていない職員に対して、利用者のためにどのようなケアが必要かを考えられるようにするのが課題である。
ケアプランチェック表	- 専門性をより意識した支援力、援助力が求められる。 - 職員間だけでなく、利用者間でもお互いを認め合い、高め合えるような意識が必要。 - 日々の業務に追われる中でも、スキルアップへの向上心が必要。

⑤介護過程推進のために、なくてはならない視点や取り組みへの気づき

気づいたこと カード	気づきでは、排泄に関して、対象者はおしっこの訴えがあり、実際にはおしっこは出ないが、トイレに座れていた。それなりに本人は納得して落ち着いて、あとは夜も眠るようになったことにも気づいた。
生活支援記録の 多職種との一元化	- 各課でそれぞれの記録を記入しており、情報を拾う際には、各課のデータから拾う手間があったが、一元化することで、その手間は減ると思う。一方、各課が特筆すべき内容も一元化された記録の中に取り込まれているので、介護課に直接関係をもたない情報量が記録の中に増えていくと考えられた。 - また、介護過程への評価という点では、介護過程自体が、介護課がケアの中で行っているものであり、現状、他課が直接関わることも少ないため、他課が介護過程への記録を残すことは少ないと思う。よって“評価”へのプロセスも、今までと大きな変化は見られないと考える。また、他課は他課での特筆すべき記録もあるので、他課が介護過程へ介入していくのも、難しいと考えられた。
個別介護計画補足資料	- 利用者に統一したケアの提供が行えるように情報収集するだけでなく、情報共有、情報発信できる環境が必要。 - 日々のケアの中で利用者一人ひとりの身体状況に合わせ、その人の考えや思いを知り理解することが重要だと改めて考えさせられた。また、その人らしさを尊重していくことが大切だと改めて感じた。 - 今後取り組んでいくのであれば、記録の一元化や補足シートが、一番手っ取り早く、施設としてないといけない書類になっているので、そこに乘せていくというのが一つだと思う。ただ、更新とか最新の情報にしていくというところが、絶対に課題として残るだろう。更新する時間とか記録の時間があればいいが、人材不足や、日々利用者に向き合って直接やってあげたいところが出てしまうと、この記録が根拠となってケアが向上していくというのはわかるが、今日の前に利用者があるんだからと思う職員もいる。その教育というのもまた必要になってくるとすごく感じた。
私の希望シート／ 暮らし方シート／ 24時間シート	- 利用者の価値観を理解し、その人をどうしてあげたいのかと思う気持ちを持つことが大切である。 - 一人ひとりの利用者の方々をよく知り、理解していくことが大事だと感じた。
私の姿勢と気持ちシート／ ケアプラン手順書／ チェック表	- 利用者を観察すること、変化に気づくこと、利用者の気持ちを理解できているか？ - 気づきについては、チーム連携の大切さを知った。課題については、色々なスタッフが関わることにより様々な視点から見ることができ、より良いケアができたと感じた。 - 利用者に対して生きがいを持った活動とは、こういった活動をしてあげたらいいのだろうと考えられるようになった。今まではスルーしていたことに気づいた。

チェック プラン 表	• 利用者の希望や将来への目標への視点のための気づきができるかどうか。 • ポジティブプランに目を向けられるかどうか。
24 時間 シート	• 自分と同じように好きなものがあり、嫌いなものがあり、こだわりがあることを忘れずにいること。 • スタッフが「24 時間シート」をつくらされていると感じないように、意味、介護過程を理解してもらう必要があるので、理解してもらうまでに時間がかかると思う。 • 利用者の想いや家族の想いを肌で感じその想いを統合して、利用者のなりたい姿を想像できるのは介護職でしかないと考えている。誇りを持てるような日ごろのケア、仕事の内容や個別介護計画を通して知識や技術等を身につけていきたいと思う。